

2017年度の活動を振り返って

ホーチミン日本商工会会長
門脇 恵一



2017年度のホーチミン日本商工会の活動テーマは「深化」でした。これに沿って本年度の活動を振り返ってみたいと思います。

まずは会員相互のネットワークの「深化」から見てみましょう。本年度の部会活動で特徴的なのは、複数部会が合同で行うイベントの数が増えたことです。最大で四部会合同まで開催しました。「実利ある交流の創出」という課題に多くの会員企業の皆さんから「共感する」と言って頂きました。バリアブントウ、第一、第二サービスの合同部会では、バリアブントウ側が企業ごとに「わが社の欲しいサービス」というテーマでスピーチし、サービス側が名刺を掲げて応えるというコーナーも実施。多様な要望に、現場で即応しておられたのが印象的でした。

会員間の新しい交流の場として「ふらっとJBAH」という企画を2回開催しました。これまで所属部会以外はJBAHの活動にあまり縁のなかった方にもご参加頂き、幅広い業界・業種・世代の方とネットワークを広げられる場にしたいと始めたものです。私自身もふらっとで名刺交換した翌日以降、オフィスで改めてお会いし詳しく仕事の話をした方々が大勢います。

次に組織運営面での「深化」です。役職者、特に部会長の方々の運営面での負担が増えているのが、近年、JBAHの抱える課題でありました。ボランティア精神による手作り感満載の運営から、組織的な運営に変えていく必要があります。本年度はそれぞれの部会ごとに、担当する事務局スタッフを決め、手分けしてサポートするという体制を作りました。上に述べたような、合同部会や部会の枠を越えての活動が活発になったのも、部会活動のサポートに事務局がより深く関わり連携が取れた結果と言えます。

私が本年度冒頭にあげた3つの「深化」のうち、

対外的なプレゼンスの「深化」、すなわち「ホーチミン日本商工会」から「ホーチミン日本商工会議所」への名称（会名）変更は、想定より大幅に遅れてしまいました。2018年3月時点で申請手続きは完了しており、2018年度の総会の場で、新名称のお披露目が行われる予定です。

これまで述べた活動の「深化」の目指すところは、事業・生活環境を改善していくことにあります。その最大のものがホーチミン市人民委員会とのラウンドテーブルです。本会議が行われるのは1日だけですが、双方の担当者は、プレラウンドテーブルという事前会議を含め、数回打ち合わせを重ねて本番にのぞみます。この過程を通して、両者の間に個人的な人間関係・信頼関係が育っているのを感じました。ホットラインと言っても良いかも知れません。実はこれが、継続してラウンドテーブルを行っている、大きな成果なのではないかと思います。

JBAHは毎年、会員以外の方でも参加できる新年会をはじめ、様々なスポーツ・文化イベントを実施しています。中でも本年度が2年目となったマラソン大会は、1400人という多数の参加者があり、さらにその大多数がベトナム人という、非常に貴重な日越交流の場となりました。既に定着しているゴルフ大会、テニス大会と並んで、今後も開催されていくことでしょう。

最後になりましたが、この1年間、商工会活動を支えてくださった皆様に、心からのお礼を申し上げます。総領事館、JETROをはじめとする諸機関の皆様、商工会活動に献身的に取り組んでくださった部会理事、実行委員長、各委員会のメンバーの皆様、そして上田事務局長以下、事務局のスタッフ、皆様に支えて頂いて、会長の仕事を続けることができました。1年間、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。